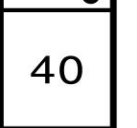

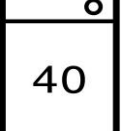


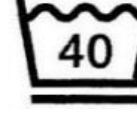















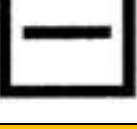



















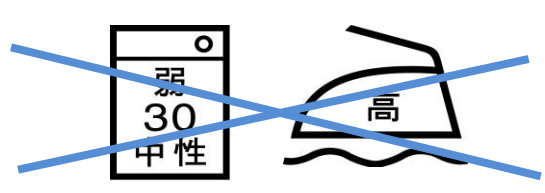


〈取扱い絵表示記号 新旧対比表〉

旧				新				
<p>＜推奨（指示）する表示＞</p> <p>例： = 「40°Cで洗濯がよい」という指示を提供。</p>				<p>＜上限表示＞</p> <p>回復不可能な損傷を起こすことのない最も厳しい処理・操作を表示。表示よりも強い作用や高い温度での洗濯やアイロン掛けは、衣類にダメージを与える可能性があります。</p> <p>例： = 「40°C以下ならば損傷を起こさない」という情報を提供。</p>				
記号	意味			記号	意味			
洗濯処理								
①	②		液温は、40°Cを限度とし、 ①洗濯機による洗濯ができる。 ②洗濯機の弱水流又は弱い手洗いがよい。	①	②	③	液温は40°Cを限度とし、 ①洗濯機で洗濯処理ができる。 ②洗濯機で弱い洗濯処理ができる。 ③洗濯機で非常に弱い洗濯処理ができる。	
								
			液温は、30°Cを限度とし、洗濯機の弱水流又は弱い手洗いがよい。				液温は30°Cを限度とし、 ①洗濯機で洗濯処理ができる。 ②洗濯機で弱い洗濯処理ができる。 ③洗濯機で非常に弱い洗濯処理ができる。	
			液温は、30°Cを限度とし、弱い手洗いがよい。（洗濯機は使用できない）				液温は40°Cを限度とし、手洗いができる	
			水洗いはできない。				家庭での洗濯禁止	
漂白処理								
			塩素系漂白剤による漂白ができる。				①塩素系及び酸素系の漂白剤を使用して漂白処理ができる ②酸素系漂白剤の使用はできるが、塩素系漂白剤は使用禁止	
			塩素系漂白剤による漂白はできない。				塩素系及び酸素系漂白剤の使用禁止	
絞り方								
①	②		①手絞りの場合は弱く、遠心脱水の場合は、短時間で絞るのがよい。 ②絞ってはいけない。	<p>（新 なし）</p> <p>＜参考＞</p> <p>旧JISにある絞り方の  上相当する記号は新JISに無いため、新JIS表示では、必要に応じて「弱く絞る」などの付記用語で表示されることになります。</p> <p>また、 は、自然乾燥記号におけるぬれ干しの記号（）にてその意味を含んでいます。</p>				
乾燥処理								
タンブル乾燥								
			（旧 なし）	①	②	③	①タンブル乾燥処理ができる（排気温度上限80°C） ②低い温度でのタンブル乾燥処理ができる（排気温度上限60°C） ③タンブル乾燥禁止	
								
自然乾燥								
①	②		①つり干しがよい。 ②日陰のつり干しがよい。	①	②	③	④	①つり干しがよい ②ぬれつり干しがよい ③日陰のつり干しがよい ④日陰のぬれつり干しがよい
								
①	②		①平干しがよい。 ②日陰の平干しがよい。	①	②	③	④	①平干しがよい ②ぬれ平干しがよい ③日陰の平干しがよい ④日陰のぬれ平干しがよい
								
アイロン仕上げ								
①	②	③	①アイロンは210°Cを限度とし、高い温度（180から210°Cまで）で掛けるのがよい。 ②アイロンは160°Cを限度とし、中程度の温度（140から160°Cまで）で掛けるのがよい。 ③アイロンは120°Cを限度とし、低い温度（80から120°Cまで）で掛けるのがよい。	①	②	③		①底面温度200°Cを限度としてアイロン仕上げができる ②底面温度150°Cを限度としてアイロン仕上げができる ③底面温度110°Cを限度としてスチームなしでアイロン仕上げができる
								
			アイロン掛けはできない。					アイロン仕上禁止
								
商業クリーニング								
ドライクリーニング								
			ドライクリーニングができる。溶剤はパークロロエチレン又は石油系のものを使用する。	①	②			パークロロエチレン及び石油系溶剤による ①ドライクリーニングができる ②弱いドライクリーニングができる
			ドライクリーニングができる。溶剤は、石油系のものを使用する。	①	②			石油系溶剤による ①ドライクリーニングができる ②弱いドライクリーニングができる
			ドライクリーニングはできない。					ドライクリーニング禁止
								
								
								
ウエットクリーニング								
			（旧 なし）	①	②	③		①ウエットクリーニングができる ②弱い操作によるウエットクリーニングができる ③非常に弱い操作によるウエットクリーニングができる
								
								ウエットクリーニング禁止
<p>＜付記用語について＞</p> <p>記号で表せない取扱い情報は、必要に応じて、記号を並べて表示した近くに用語や文章で付記されます。考えらえる付記用語の例：「洗濯ネット使用」「裏返しにして洗う」「弱く絞る」「あて布使用」など</p> <p>旧JISでは、「中性」の文字の記号内への付記や、アイロンのあて布の記号の付記の方法が定められていましたが、新JISではいずれも文章で付記されます。</p>								



*「旧」と「新」の表示記号の意味は同一のものではなく、表示記号の意味が一番近いものを対比しています。